

19/4/1 河村たかし名古屋市長定例記者会見

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

幹事社：幹事社からは特にございませんので、市政一般に関してのご質問をお願いいたします。

河村：いや、アイコンタクトが、アイコンタクト。ストレンジアイコンタクト。

記者：すみません

河村：どうぞ

記者：新年度もよろしくお願いいたします。

先週お城の部会でいろいろとやりましたから、石垣部会からから市の計画について厳しい意見が相次いでいますが、それについての受け止めと今後の何か、対応等お考えがありましたら教えて下さい。

河村：まあ、丁寧が上にも丁寧にやってまいりまして、石垣部会の皆さまにも、丁寧に対応をさせていただいてきております。これ以上の丁寧さはないくらいにやっております。まあ、大きな、こないだ気付いたんだけど、某新聞に、石垣部会としてはコメントじゃないけど。載ってましたけど、なんですか石垣とは書いてなかったかな。

いわゆるフォーマルというかわゆるその規制があって、手順を踏んでないので今回ね、そういうのが某新聞に、ある方のコメントでありましたけど、これは間違っております、これ。それが根本なんですわこれは。

これは4年5年になるから、何遍でもいいですけど、変わった人もおるもので、言わないかんのだけど、技術提案交渉方式という5-6年前に新たに採用された、国会で衆参、当然衆参ですけれども、全会派一致で即日施行されました。

品確法ってある、公共工事における品質の確保の促進に関する法律というのが制定されて、まあ順番にいきますと、そのときには審査会に行って僕が発言してる会議録に出てきますけれども、例えば石垣でいうと10年とか20年かかるといっている人もあると。とかね。これは書いてなかったかと思えますけど。当時言われとったのは、昭和実測図ってすごいのがありますが、裏側はわからんのです正直言って。裏側は。わからんとかいろいろあるので、やっぱりその従来の市営住宅をつくる時のように、公共工事において発注側が全てスペックを決めてですね。それで発注すると。コンペをやると。というやり方は取れないと。という場合にどうしたらいいかということ、私が国交省に相談した。

一方、本丸御殿なんかは文化財ですけど、こういうような図面をこっちで書くいうのかな、あれ。詳しくちょっとわからんで、そういうことでいいんか？図面は発注者。市役所が書

く。これで入札してくれと。やるんだけど。

石垣なんかもありますので、石垣をどうやってやるかについてはこれ大変難しい問題があるんですね。

私も石垣なんかの手引きて文化庁が書いたのを何遍か読みましたけど。

そんななかなか非常に難しいんですこれは。

石の強度というのは非常にむずかしいです。だからそういう場合にどうしたらいいんだと。

10年20年かかるいいますと、天守がもうボロボロ。

耐震強度がありませんので、Is値0.14って、これちゃんと出とりますので。

そうするともうそんだけまっとれませんので、これ耐震コンクリートで耐震補強ということになってしまう。いうことで、これせっかくの図面があり、まあ木造、本物復元、ができるタイミングを逸してしまうということで国土交通省に相談しまして、国土交通省も中部地整、中部地方整備局からこちらお見えになりましたけど、まあいろいろな考えていましたけど。公共工事において、要するに発注者、主語は公共工事だけれども、文化財も当然いいです。それはまあ4-5日前にさらに確認しましたけど、国土交通省に。公共工事において、その初めに、スペックが決めきれないとき。発注者が。このときは、そのどういうものを作るかということ自体、そのことから競争して、そこで、優秀交渉権者を選んでその優秀交渉権者とまあ随意契約という法律が当時でいうと1年前です4年ぐらい前。ができたので、これが一番いいんじゃないですかと言う発言がご提案というか、説明がありまして、そうですかということで、こちら文化庁にも詳しく説明いたしまして、前記丁寧じゃあ文化庁はわかりましたと、まあ丁寧にことあるごとにという表現じゃなかったですけども、まあ実質上ことあるごとにぐらいで丁寧にじゃあ説明してくださいねと。いろんな段階をおって。

という話があって、始めたのがこの技術提案交渉方式によるまあ日本で初めてですけれども、地方でやるのも初めてです。一番最初に採用になったのは例の東京の国立競技場ですわ。これでいうと。途中でいっぺんガタガタしましたけど、あれがそうです。

地方でもこの名古屋が初めてです。これが採用されるのは。

それからこの文化財でこれだけのものは初めてじゃないか。

これだけのものでなくても初めてだと。

そういう5-6年前の従来型ではない。この国が決めたですね。

方式によって丁寧に文化庁にも丁寧に上にも丁寧に説明してやってきた方式によって、これいまやっとなる訳です。これが。その辺が、どうも僕が〇、あの言いましたけど、石垣部会に。そういうことなんですよと。

じゃあ誰かが名古屋城の天守と石垣も含めてですよ、あのときに発注のスペックを決めたのかと。それじゃああのときに。

これ、それはこりゃ難しいと思いますよ。

決めれん事はないですけど。これ。だけどそういうときにはこういうそういうときにこそこういう方式を使ってくれと言うふうに国がですね。これ。

全部、全会派賛成です。即日施行された法律に基づいてやってる。品確法の 16 条 16 条。再度確認しました。

そのコメント、文化財には適用がないですが、今ありますよって。

主語は公共工事だけです。

そのかわり文化庁にはこの問題ですから相談してもらわんといかんわね、そらそうでしょうってこと。

非常に丁寧なうえにも丁寧にやってまいりまして、何年前でしたかちょっと名前いうのやめておきますけれどもだいたい間違いはないですけど、文化庁の課長さんが竹中案って素晴らしいですねと言っておられました。そこには石垣も含まれております当然。

だから、ケーソンで受けとめますので。

完成してからでも石垣をテイクケアできるんで、石垣は 500 億の中に 45 億は石垣のお金です。そういう方法と取りながら進めていくということを決めたわけですよ。

法律に従ってそれを石垣部会さんに丁寧に説明しまして、これ、それを根底的にですね頭からひっくり返すことはできませんよ。わやですそうなったら、そういうことでございます。その旨もきちっとお話をしまして、そういうことならみんなまあ切腹と。これ。そのかわり私一人では切腹しません、関係者全員切腹です。これができなかつたら。当然なりますよ。市民の皆さんに対して責任とらないかんじゃない。そんな本当にめちゃくちゃやったのかととられるじゃないですか。これ。

ああいうコメントみたりしとるとね。なんかプロセスをへとらんようなコメント。

僕、聞いとらんからわかりませんが。そうなるでしょ。そうじゃないんですよ。

名古屋市としては非常に丁寧に法律に従って文化庁、国交省と協議しながらその工法を左右することにも実は審査会みたいなものがあるんですよ。

それは東京におられる、これ国交省から紹介してもらったけど設計士、建築を、名前はあれですけど、やりながら弁護士さんをやられとる人が中心になってこの方式でやっていいかどうか名古屋城をね。やっていいかどうか。そういう会がありました。そこで OK になっております。正式に。

それは当然のことながら全部公開されてやっていますので、これは、全部公開していたやっておりますので、文化庁も全部知っています。

当然石垣部会の皆さんも当然知っておられると思いますよこれは。ええ。ただし新しい方式だから五、六年前になるかな。そういう方式で進められたものだということで、僕らは自信もっておりますよ本当に。そうでなかったらどうしようもならんもん。決めきれんもん。

記者：石垣部会は技術提案方式に対して厳しい意見をいったのではなくて、その石垣の保全の仕方として市が提案したものに対して厳しい意見をいったと思うんですけども。

市長：いやいや技術提案方式によって竹中方式の提案があつてですね、そのまま全部やれ

という意味じゃなくて、いろいろ丁寧にやったらいろいろ改善を加えるのがいいですけど基本的にはその方式によるということで決めたと私どもは適切なプロセスを踏んでいるということなんで。

記者：その中で石垣の調査が足りないっていう意見だったと思うんですが

市長：私が聞いておるところでは石垣の専門家が言っておりますが、こっだけ丁寧にやっただところは初めてだと。これは、聞いてますよ。

記者：石垣部会の先生方の厳しい意見をうけての市の受け止めに伺っていますけど。

市長：そりゃまあ。いろんなご意見が出てくるのが当然でございますでしょうが。そもそもどうやってやるかということ自体が難しい。ある学者なんか僕に言ってましたけれど、4年5年前のことですけど。濃尾地震の時に天守石垣は無傷だったと。

完全に無傷かどうか違うかわかりませんが、壁なんか落ちたのありますけどね、だから何もしない方がいいんだときいてますけど。

膨らみの部分もその後の調査でまたちょっと違ってますけど、上から石が若干落ちてきとるんじゃないかと、どうもそれは違うみたいなのですが上に空間はないみたいです。そんなことで、これはこれで丁寧なやらなあかんけど、ということをする意見もあつたぐらいなんでそもそも。だから全部、極端なこと言えば全部外してですね。これ。いうことは、わかりませんよ。わかりませんが、熊本城においてもですね、崩落したのは主に明治期の石垣でして、宇土櫓を初めとして全部確認してませんよ。加藤清正建設の社長が積んだ石垣については、少なくとも天守台の大天守石垣、内側は若干崩れてますけど外側は12センチ沈んだだけで無傷ですこれ。だからそういう説もあるんです。

そんな中でどういう選択をしていくかというのは竹中が一つの提案をしているという中で石垣部会からもご提案がありましたので、こっちはこっちで丁寧なうえにもやりますよ、文化庁からも、これで要するに天守のまゝどういいますかコンクリートでようけ作ったわけですよ、戦後。たくさんありますよそのお城は、それがみんなだいたいこれで寿命を迎えるわけですよコンクリートは標準50年ですから。

建て替えの話なんかでてくるんだけど名古屋城がリーディングケースになるのでまあ、とにかく丁寧にお願いしますという話がありましたので、丁寧なうえにも丁寧に石垣部会の皆さんにもご相談してやってきたということ。

まあ名古屋からこの前文化庁に行って話してきましたんですけども名古屋でやったやり方というのが、今後のお城の復元なのか、名古屋城ほどきちとした図面があるところありませんけれども、文化庁がどうされるかという判断になってくると思うけど、そのモデルケース、リーディングケース。それを引っ張るような石垣と天守の問題をようふうやっていきますと自信をもって答えてまいりました。はい。

記者：石垣部会から全体整備会議、全体整備検討会議までがちょうど先月末までに終わったんですけれどそれを受けていつぐらいに文化庁にもっていかれるのか

市長：いやもう早いとこ。向こうから文化庁さんから言われております。まず一定のチェックをいたしましてと、これから正式に提示するのはその後何日までに提出してくださいよと。言われておりますので、僕が持って行くつもりです提出の時は。ええ。当然ですわねこれ、僕からすればやっとなんてです。こんな丁寧に来てこれ、本当に。

これほどまでに丁寧にやっとなんてです。言っておきますけど。

それをやらなければやらなくてそういう技術交渉方式をとらなかつたら今までできてませんよ。スペック決めれるのだから。まだ10年間かかるとか言ってるんですから、そうじゃないですか。

石垣部会のコメントの一番後ろの、ちょっと言葉がちがうと、てにをはを言われると困るんですけど、まず総合的に調査をすること、さらにこう書いてあるんですよ。これ。どうなるんですかあれ。あれ。

どうやってやるんですか。総合的に一体的とかどうやるんですか、教えてもらわにゃいけませんよ。

っと天守はどうなるんでしょうか。これ。1年も入場禁止にしていますけど。これ。そうでしょう。どうしたらいいんですか。これは、こんな異常事態を。

たまたま本丸御殿が頑張っておりますので、入場者数は220万人を昨日超えたのではないかということで、まあ、歴史上2位か3位くらいの入場者数になってますけど、本丸御殿ができたからなんであって普通は入場禁止したら収入は減りますよそりゃ普通は。そりゃね。ならそういう場合の損害はどうなるんですかこれ一体。これ。悪いですが市民に負担させるんですか、これ市民の皆さんに。そんなことできませんよ言っておきますけど。

木材今1年待つと1億かかるいっているじゃないですか。保管料が。これどうするんですかこれ一体、そんなことできませんよ。こんな無責任なこと。市民の税金を使うということは。私らがやったことで間違いがあれば別ですよ何かこれ。本当に。ということでございまして。

記者：市長あの、技術提案交渉方式と石垣部会が言っている、その手順をふんでないっていうことの関係をもうちょっと整理したいんですけど、要するに竹中案が出してきた技術提案交渉方式というものが名古屋城整備の大枠であって、それを超えるような、例えば石垣の調査であるとか、石垣の保全であるということについては、本来は後から言えないはずだということですね。市長が言いたいのは。

市長：それはわからない、そんだったら、本丸御殿のように、そういう民間の提案を募るんじゃなくて技術提案をするのじゃなくて、初めから何年かけても、いまいわれているよ

うなね、なんか10年か20年、僕も当時10年か20年かけても名古屋市がそのスペックを確定してからやるべきだ。文化ないしは文化財には適用がないと技術提案方式はとかね、仮に、そういうふうにすれば別ですよ、違うんだから。

これ。大変、その決めるのが困難なために、民間からの提案によってそれを基本にしてですよ、そのままということじゃないですよそれは、基本にして、文化庁とよう相談しながらやっていると。そういうやり方だから、手筈はきちっと踏んどるんですよ。

記者：石垣部会が求めていることっていうのがまた名古屋市がすでに決めたスペックを超えるようなことを要求しているという

市長：なんか基本的なプロセスを経ていないと言われると、某新聞のコメントですよ、それは。直接きいたことがないから、僕はもう何べんも石垣部会の人に、いっぺん会ってお伺いするのでちゃんと説明させていただいて皆さんの意見も聞いてと言っとるんだけど、会わんと言ってますんで。本当に。

だから、そんなこと言われたって、私悪いけどこれ、議会も通っておりますし、材木も今6割から7割もう切っちゃとんですかこれ。

こんな状況でおるから、この間で寄付金だけで3億2000万でしょ。いわゆる財界的なそういう仕組みじゃなくてですよ、小学校の十円募金も入れてですよこれ、本当の大衆募金ですよ今度の方が。前のコンクリートで作った時の資料が出てきましたけど、財界から当時は桑原幹根さんたちが訴えて、そう仕組みで集めたお金なんですよ、基本的に、基本的にですよ。

市民募金がないとってるわけじゃない。そういう状況下においてですね、ちゃんと会って言わないかと僕は。それと名古屋のことですからまだ45億も石垣にかかる予算が組まれておりますし、それは誰がどう言われたって日本の最高の石垣の状態にしますよ、これは誰がどう言われたって。これは。

だから僕は石垣のプロの石工さんの会社がありますけど、「こんなことやったことないですよ河村さん」。そんな丁寧に石垣やったらとこないですよ現状でもね。だから言うことは言わなかいかなよと言ってました。ちゃんと。ということで、ごさいますけれども。

記者：市としては自信をもって文化庁にもっていけるということでしょうか。

市長：そりゃそうですよ。世界最高峰ですよこれ。ええ。世界にお城は、こういうお城はありませんので、もっとヨーロッパ流のお城はようけあるけれど、日本、まあ世界最高峰ですよ聞いてますよ僕、竹中さんからこの間、これ世界1位と言っていていかいと聞いたらいったら世界1位かどうかわからんけど素晴らしい工法ですよって。いってました。こんだけやったことがありませんので、さらに進化させて石垣部会の皆さんにもああよかったなど。やっぱり名古屋のやり方というのは凄いなあって。今後のモデルになるねこ

れはというように言っていただけのような仕組みというかプロセス、結果もなると思って
います。

記者：先ほど「切腹する」とおっしゃったのは具体的には何をさしているのですか。

市長：そう言うことですか。そういうことだわ。本当に。

記者：職をかけるということか。

市長：そういうことはあんまりね、選挙で市長なんか、あまり簡単にいうもんじゃないで
すよ。これができんかったらやめるとかね、そういうこと言うもんでないもんで、ちょっ
と違う表現をしたと。よっぽどのことだと、僕からすれば何度も言ってるけど、技術提案
交渉方式の時からやりかけたの僕しかいないんですよ。これ。文化庁も全部代わっていま
す。それから名古屋市の職員も全部代わっています。僕しかいないのこれ。部会員の方は
いますけどね。部会員というのは専門家の皆さんは。いないもんで、私が間違っただとい
うことになるじゃないですか。これ。

市民からすれば。何なんだとこれほど。これ。そんないい加減な方法でやって市民から 3
億 2000 万円もあつめたのかと。小学生に十円募金集めたのかと。これいかんですよ、やっ
ぱりこれは。責任重大ですよそういう意味では。ええ。その代わり私は、自分だけ、の方
にはしません。こんだけ丁寧にきちっとやっていくのが名古屋市とすりゃ、これはちゃんと責任
とってもらわんといかんよ。そういうことですね。

記者：最近 2022 年 12 月というのをあまり言わなくなってきたような気がするんですけれ
ど。

市長：そんなことありませんよ。あたりまえだからそのままになっているだけ。ええ。そ
んなことありませんよ。それ。

記者：早期復元っていうなんかこう抽象的な言い回しに変わってきたんじゃないかなとい
う気がしていますが。

市長：これもこの間も聞いたけど全然違います全く。2022 年 12 月と言っても人はわから
んがね、なかなかわからんがね、どういう意味なのか。普通の人が。ぱっとポスターなん
かにもそうやって書いてあるけどよう分からんでしょ。だから早期復元と書いてあるん
です。

記者：市長ってどうなったら切腹だということでしょう。

市長：いやそんな変なふうになったらですよ。

これ本当に。木造が作れんようになって、なんか訳わからんいうことで止められたりしたら、それはそういうことじゃないですか。

記者：間にあわなければというふうではないということですか。

市長：間にあわなければもそう同じですよ。同じですよ。そんなの。ここまで丁寧にやってきて、そりゃそうですよ、道中なんて言ってくれなんだのと何べんも言ってますよ。それ。ええ。

文化庁からは丁寧にやってくださいと、ことあるごとにちゃんと報告してくださいということで、全部その技術提案のとおりですけど、出してありますし、さっきほど言ったけどある課長さんが「竹中案って素晴らしいですね」って、そういうことなんですよ。言っていましたし。ないしもっと一番はじめにね、それじゃ文化財に技術案交渉提案方式が使えないと、反対にはっきりいってもらわないといかんですよそうだったら、なんで使えないんですかという論争になりますけど

国交省が使えます。主語としてはちゃんと公共工事だけですから主語は。そう言ってくれなきゃいといかんです。ないし

記者：天守部会のメンバーの方が「このままあまり進まないんだったら石垣部会の解散を考えたほうがいい」くらいの発言をされているんですけど、市長としてはお考えはどうですか。

市長：それはあんたらの畏にはまるんで言えない、すみませんけど、言えることは今まで本当に適正にですね、法にのっとって、それから文化庁の指導にのっとって丁寧にやってきたもんですよ。ええ。そんな全部ひっくり返すようなですね、こんな議論なんてのは考えられんですよ。本当に。これ。

ものすごい大きな市民の期待がありますからこれ、言っておきますけど。

やっぱりご高齢の方々からすると生きとるうちにちゃんと登れるようにしてちょうよいつて、いわれますに私に本当に。それでみんなで寄付してくれて、ある百万円もってきた人なんか「もし変なふうになったら返してくれよ」といってますもん。本当に。いってますよ本当に。そりゃそうですよ、そうなりますよ当然。

記者：確認ですけど。2022年の12月末の今のスケジュールにまにあわなかったら、もっと近い意味で言うと、今年5月の文化審議会での審議で認可までにいかなかったら。ご自身含め関係者の方が責任をとられるということですか

市長：責任取ったってなんにもならないでしょ。これ。作るほうが大事なんで。そうでしょう。

そんな誰かが辞めて済むというような話じゃないでしょ。これ。ものを作るんですから普通のなんか財務省がインチキの報告を書いたとかああいうのは誰かが責任を取りゃいいんで。

これ違いますので、それはもう相当の決意をもっておるんですよ。伝えてもらわんといかん。文化庁にもいってありますけど。

記者：切腹とはどういう行為を指すんでしょうか。

市長：そんなもん自分で言ってちょうだい、自分で考えてちょうだい。切腹もんだぞよ。

記者：それくらいの強い意志で望んでますよ

市長：そういうことですよ。本当に3億2000万も集めてですよ、小学生に十円募金をしてもらってですよこれ。

ほんで実はプロセスが間違っていましたすいませんでした。とんでもない詐欺になっちゃう、そうだったら、本当にこれ、名古屋市を挙げて詐欺をしたのかねということになりますよこれ、違いますから。

これはよっぽど強く言わないといかん。まだ45億もあるんですよ石垣のお金が505億の中にこれ。ご承知のように名古屋城は熊本城もそう熊本城はパイルですけど、ケーソンで天守をうけてますので、できてからでも石垣のいろんなケアはできるわけです、これは。

熊本城のあれがことがちょっと若干タイミング的に、大変だったですけど。熊本城も先ほどいつてきたように大天守石垣は12cm沈んだだけで、内側はちょっと傷ついておりますけれど、なぜかというと8本のコンクリートパイルとかあれは天守の上ののってないんです。はい。石垣のうえに。

名古屋城はもっとすごいケーソンでうけてますので。

それは文化庁もそれはそれでいいと。そこまで全部やり直せということはいつてません、ケーソンは江戸時代にありませんでしたから。熊本城のコンクリートパイルも江戸時代にはありませんでしたから。そこまでいつてませんから、そういうお話です。

まあこれ、市民の皆さんにいつていかんと名古屋市は4、5年まえからかけて新しいこういう公共工事の発注方式である技術提案交渉方式と、何かといつたら、公共工事において市営住宅なんかの場合のように、初めに全部その図面を書いて役所側が、それで入札する方式がとれないとこの場合、その通りじゃないですか石垣だって。だからこうなっている訳でしょ。

そういう場合には初めの提案のところでもうコンペをして、提案をしてもらってそこで優秀提案なった人と、あとは随意契約で相談をしながらやっていく方式をとったの。

文化庁にも時々丁寧に説明してくれというものですから、非常に丁寧に説明させていただいて、文化庁の了解をもらってやっとなるわけなんです。はっきり言えば、技術提案交渉方式、だからここまでこれた。

これが。木造天守、木造復元という当時じゃ夢の話です。夢です、こんなことは。

夢の話がいよいよ目の前に実現可能なところに来たということです。

だで名古屋市はそんなプロセスを外したことはありませんこれは。文化庁の了解を得て非常に丁寧にこの4、5年やってきたということです、きちんとやり抜きます。

こんなことでだめだったらいっとれんですよ本当に、こんなひどい話は、いう話しですよ。

本当ですよ。ええ。

そうなめてもらっちゃいかんですよ。本当に。私も70歳ですけど嘘を言ったことはありません。

800万でちゃんと貫いている、議員とかこういう人間はちゃんと貫くんです必ず。そういうことです。

まあだいたいいいんじゃないですか言いたいことは。言いたいことは。まあいろいろ打ち合わせをしながらずっと進んでおりまして、正式に提案するのは、まあもうちょっとあとになりますけど割と近いですけど、4月にはいりましたから。

私がおもっていきますけど。向こうのまあ責任者の方に今日も言ってありますが、これは文化庁長官に渡さないといかん。文化庁長官のスケジュールに合わせてどうしてもいかん場合は次長とかありますけれど、責任者の方に。僕もやっぱ責任あるからねえ。市民の皆さんにねえ。

記者：他よろしいでしょうか。よろしいですか。はい。それでは、例会をこれで終了させていただきます。